

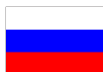
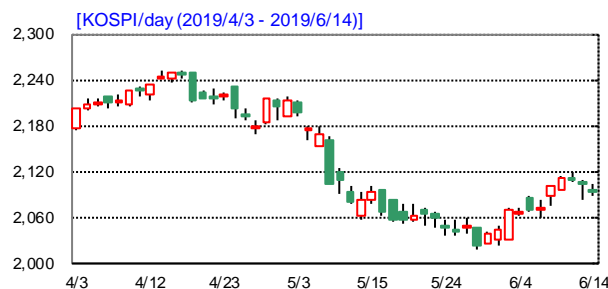


## 【韓国】 総合指数は週間で 1.1%高と続伸、今週は 2100 ポイントを試す展開か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.1%高と続伸した。米 FRB が利下げに踏み切るとの観測が広がった上、米トランプ政権がメキシコに対する制裁関税の発動を見送り、週前半に買い材料視された。11 日は 4 営業日続伸し、終値ベースで 5 月 8 日以来ほぼ 1 カ月ぶりの高値を付けた。ただ 12-14 日は小幅ながら続落。月末に大阪で開かれる G20 に合わせて米中首脳会談が開かれ、行き詰っている通商交渉が進展すると期待が後退した。ホルムズ海峡近くでタンカーが襲撃された事件を受け、中東の地政学リスクも意識された。今週は前週末 14 日に割り込んだ節目の 2100 ポイントを試す相場展開か。米金融政策を巡り 18-19 日の FOMC とパウエル FRB 議長の会見が注目される。17 日には米政府が対中関税の拡大に関する公聴会を開催する。

▼指数チャート

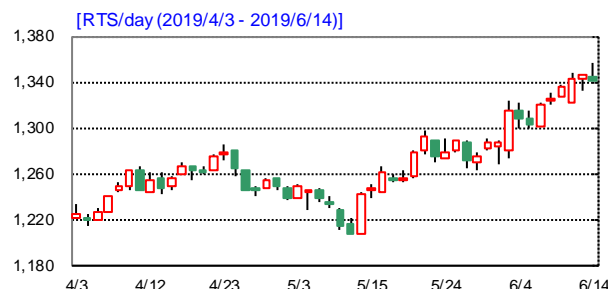


## 【ロシア】 RTS 指数は 1.1%高と 5 週続伸、今週は中東情勢にらみ神経質な展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 1.1%高と 5 週続伸。中国の景気刺激策期待や原油の需給ひっ迫観測などが好感され、指数は前週に続き約 5 年ぶりの戻り高値を更新した。先週は 12 日が祝日のため 4 日間の立ち会い。米国が対メキシコ制裁関税を見送ると決めたことで週明け 10 日は世界的にリスク回避姿勢が和らぎ、RTS 指数も 0.7%高と上昇してスタート。その後も中国の景気刺激策への期待に加え、ホルムズ海峡近くで石油タンカーが攻撃され、供給不安から原油価格が上昇した事象を受けて投資家心理が改善した。14 日は中国の 5 月の鉱工業生産が約 17 年ぶりの低い伸びとなり、指数は 0.4%安と 6 営業日ぶりに反落したが、終値で 1340 ポイント台を維持した。今週は中東情勢や米中貿易交渉の動向をにらみ、神経質な展開か。

▼指数チャート

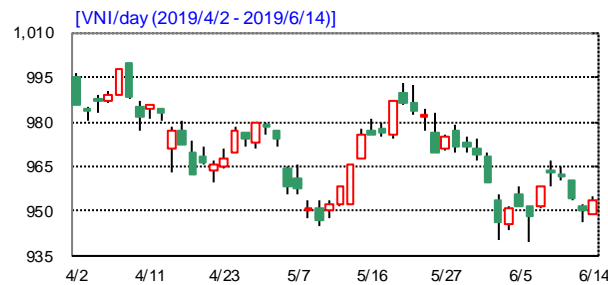


## 【ベトナム】 ベトナム指数は 0.5%安と 4 週続落、今週は米利下げ見通しが焦点に

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.5%安と 4 週続落。米中貿易摩擦に対する警戒感の広がりや世界的な景気減速への懸念が重しとなった。週明け 10 日は前週末の弱い米雇用統計を受けて米利下げ観測が高まったほか、米国とメキシコが不法移民対策で合意し、対メキシコ関税が回避されたことが好感され VN 指数は 0.5%高と上昇してスタート。ただ、トランプ米大統領が中国との通商協議について、中国側が主要な点で再び合意しない限り協議を進めないと主張し、米中貿易摩擦への警戒感が再燃。中国の景気減速懸念の強まりも投資家心理の悪化につながった。指数は 11 日から 13 日までの 3 日で 1.3%安となったが、14 日は 0.4%高と反発し、週の下落幅を縮小して終えた。今週は米 FOMC の結果を受けた米国の利下げの見通しが焦点か。

▼指数チャート

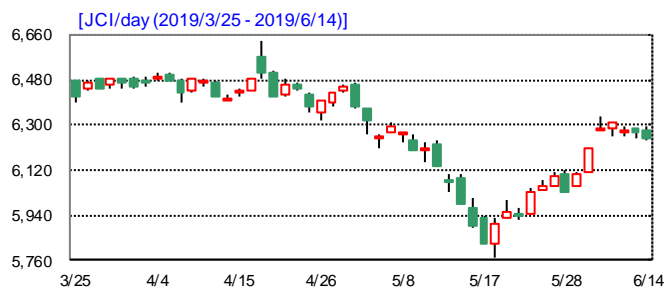


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】**ジャカルタ総合指数は 0.7%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は連休直前の5月31日に比べ0.7%高。週前半の上昇が奏功した。10日は米国での利下げ観測の高まりが買い材料となり、指数は前営業日比1.3%高と好発進。11日には終値で約5週間ぶりに6300ポイントを回復した。ただ、勢いは続かず、12日に中国経済の後退懸念を受けて5営業日ぶりに反落すると、13日は財務相が今年の国内経済の成長率について、目標値の5.3%を下回るとの見方を示したことが嫌気された。14日も売り優勢の展開が続き、3日続落して引けている。今週は20日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定で、政策金利は6.0%に据え置かれるとの見方が優勢。

### ▼指数チャート

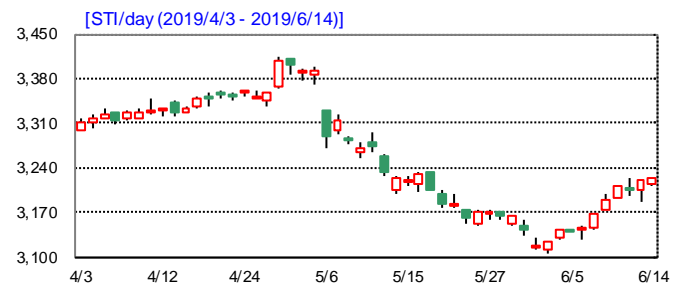


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】**ストレーツタイムズ指数は 1.8%高、不動産株の一角が好調

ストレーツタイムズ指数は週間で1.8%高と続伸。不動産株の一角が好調だった。週初の10日はシティ・デベロップメントが指数上昇をけん引。同社は前週末に英ミレニアム&コプトンホテルズの全株取得に関する合意を発表していた。11日は中国でショッピングモールを展開する子会社3社の株式売却計画を明らかにしたキャピタランドが買われた。12日は4月の小売売上高が前年同月比1.8%減と市場予想から下振れた影響で小幅ながら7営業日ぶりに反落したものの、13日に反発すると14日は終値で約1カ月ぶりの高値を更新して引けた。今週は17日発表の5月の非石油地場輸出に対する市場の反応が焦点。

### ▼指数チャート

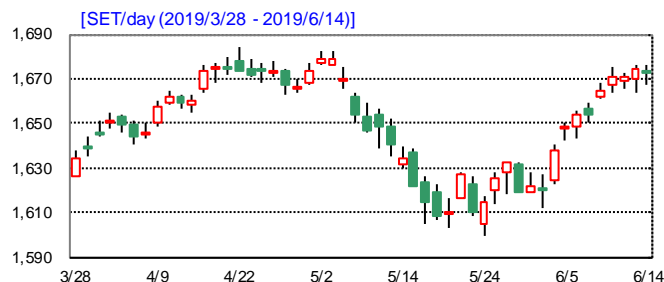


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】**SET 指数は 1.1%高、今週は 21 日に 5 月の貿易統計(通関ベース)発表

SET 指数は週間で1.1%高と4週続伸。おおむね堅調な値動きだった。週初の10日は米国の利下げ観測に加え、前週末にトランプ米大統領がメキシコに対する追加関税の発動見送りを表明し、好感された。指数はその後もじりじりと上値を広げ、13日まで8営業日続伸したものの、14日は中国の5月の鉱工業生産が前年同月比5.0%増と17年ぶりの低い伸びにとどまったことで、世界的な景気減速への懸念が広がり、反落して引けている。今週は21日に5月の貿易統計(通関ベース)が発表される予定。外部要因では、ホルムズ海峡付近でのタンカー攻撃を受けて先週に上昇した原油先物価格の動向が注目される。

### ▼指数チャート

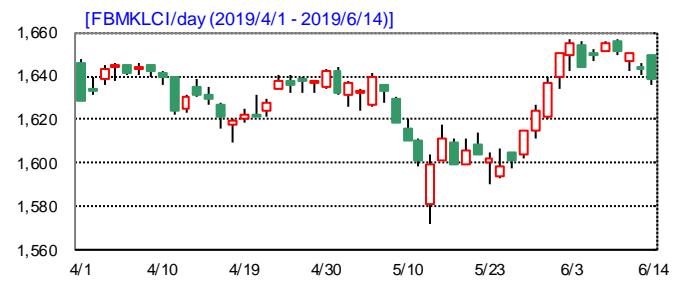


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】**クアラルンプール総合指数は 0.6%安、今週は米 FOMC の動向に左右される展開か

クアラルンプール総合指数は週間で0.6%安と続落。週初は続伸してスタートしたものの、その後は週末まで軟調に推移した。10日は前週末のNYダウが約1カ月ぶりの高値を更新した流れを引き継ぎ、通信株や工業関連株が買われたが、11日はテナガ・ナショナルなどの大型株に利益確定売りが出て反落。同日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比4.0%増と市場予想から上振れしたが買い材料にならなかった。指数は12日以降もじりじりと下値を広げ、結局、週末まで4日続落して取引を終えている。今週は国内の重要イベントが少なく、18-19日に開催される米FOMCの内容が株式相場を左右する展開か。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。